

# 【 日 出 町 】

## 平成28年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校）

### 1 調査結果の分析

小学校：国語

※赤数字は全国の正答率を下回るもの

小学校	平均正答率		観点別正答率							
	知識	活用	A：主として知識				B：主として活用			
6年生 国語			話す聞く 能力	書く能力	読む能力	言語について の知識 理解技能	国語への 関心・意欲 態度	話す・聞く 能力	書く能力	読む能力
全国	73	58	79	73	79	71	55	51	53	69
県	73	58	81	72	79	71	56	51	54	70
日出町	74	59	79	75	77	72	55	52	55	72

○平均正答率は、知識、活用ともに全国を上回っている。

○観点別正答率は、A問題では、「読む能力」が全国を下回っているが、B問題では「読む能力」も含めて、全ての観点で全国を上回っている。

○A問題の、「平仮名で表記されたものをローマ字で書いたり、ローマ字で表記されたものを正しく読みだりする問題。」では、無回答率が20%を超えるものもあり、全国は無回答率より高くなっている。しかし、このローマ字の問題以外は、全国に比較して無回答率が低く、諦めずに問題に取り組んだことがうかがえる。

○B問題では、「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしなが、読むことができるかどうかをみる。」問題は、全国正答率より高くなってはいるものの、無回答率が9.2%（全国11.5%）と高くなっており、課題が残る。

○正答率が60%未満の児童の割合は、A問題では19.6%（全国21.3%）、B問題では、42.1%（全国42.4%）であり、下位層の底上げが課題である。

小学校：算数

※赤数字は全国の正答率を下回るもの

小学校	平均正答率		観点別正答率				
	知識	活用	A：主として知識		B：主として活用		
6年生 算数			数量や図形についての技能	数量や図形についての知識理解	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解
全国	78	47	83	75	41	53	70
県	78	47	83	76	41	52	69
日出町	80	47	84	78	41	48	69

○平均正答率は、知識が全国を2ポイント上回り、活用は同じである。

○観点別正答率は、A問題では、全国を上回っている、B問題では「数量や図形についての技能」「数量や図形についての知識・理解」が全国を下回っている。特に、「数量や図形についての技能」は、全国より5ポイント下回っており、大きな課題である。

- A問題、B問題ともに、全国と比較すると無回答率は下回っているが、B問題において、無回答率が10%を超える問題が4問ある。特に、5-2「示された除法の式を並べてできた形と関連付け、角の大きさを基に、式の意味の説明を記述できるかどうかをみる。」問題では、無回答率が16.6%（全国は18.7%）であり、正答率も8.1%（全国は6.9%）と低くなっている。
- 正答率が60%未満の児童の割合は、A問題では14.0%（全国18.5%）、B問題では、66.4%（全国65.7%）であり、下位層の底上げが課題である。

## 平成28年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校）

### 1 調査結果の分析

#### 中学校：国語

※赤数字は全国の正答率を下回るもの

中学校 3年生 国語	平均正答率		観点別正答率						
	知識	活用	A：主として知識				B：主として活用		
			話す聞く 能力	書く能力	読む能力	言語について の知識 理解技能	国語への 関心・意欲 態度	書く能力	読む能力
全国	76	67	79	74	79	74	58	58	67
県	75	66	78	73	77	73	58	58	66
日出町	76	68	80	75	78	73	60	60	68

- 平均正答率は、全国と比較すると知識は同じ、活用は1ポイント上回っている。
- 観点別正答率は、A問題では、「読む能力」「言語についての知識理解技能」それぞれ1ポイント下回っている。しかし、B問題では全ての観点で全国を上回っている。
- A問題の、「漢字を書く（ドクソウ的）」「適切な語句を選択する（白羽の矢が立つ）」「文字の大きさや配列に注意して書く」が、正答率50%以下で、全国正答率に比較しても下回っている。特に、「漢字を書く（ドクソウ的）」の正答率は24%である。
- A問題、B問題合わせても、2項目以外は無回答率が全国を下回り、諦めずに問題に取り組んだことがうかがえる。
- 正答率が60%未満の生徒の割合は、A問題では13.1%（全国16.3%）、B問題では、36.0%（全国37.3%）であり、全国と比較すれば下位層が少ないものの底上げに努める必要がある。

#### 中学校：数学

※赤数字は全国の正答率を下回るもの

中学校 3年生 数学	平均正答率		観点別正答率			
	知識	活用	A：主として知識		B：主として活用	
			数学的な 技能	数量や図形について の知識・理解	数学的な 見方や 考え方	数学的な 技能
全国	62	44	67	57	39	59
県	61	42	66	55	37	57
日出町	65	44	72	59	39	56

- 平均正答率は、知識が全国を3ポイント上回り、活用は同じである。
- 観点別正答率は、A問題では、全国を上回っている。特に「数学的な技能」については、5ポイント上回っている。B問題では「数学的な見方や考え方」については、全国と同じであるが、「数学的な技能」については、3ポイント下回っている。その原因として、問題2-1「一次関数の表から $x=4$ のとき $y$ の値を求める」(条件を基に、表から数量の変化や対応の特徴を捉え、 $x$ の値に対応する $y$ の値を求めることができる)の正答率が50.4%と、全国正答率と比較して8.7ポイント下回っていることが原因である。
- A問題、B問題ともに、全国と比較すると1項目を除いて無回答率は下回っている。
- 正答率が60%未満の生徒の割合は、A問題では33.7%(全国44.9%)、B問題では、72.8%(全国72.8%)である。問題の難易度も大きく影響するが、大きな課題であり、対策を考える必要がある。

## 2 具体的な改善方法

### 学校全体で取り組む授業改善

- 「目標達成に向けた組織的な授業改善」が進むよう、「マネジメントサイクルを取り入れた授業改善」に取り組む。
- 問題解決の学習を進める等、言語活動を重視しながら、学び方を育む学習活動を充実させる。
- 互見授業を一人が年間5回以上は行う。
- 授業観察チェックシートを作成し、管理職の授業観察や互見授業で活用する。観察後は、校長、教頭で、必ずシートを基にした指導を行う。
- 活用力を向上させるための校内研究に取り組む。(町教科部会での交流、校内での研修、県指導力向上研修の還流)

### 習熟の程度に応じた指導の充実

- 小学校では5, 6年生の算数、中学校では学校の実態に合わせて、数学、英語で実施する。
- 補充学習については、小学校では放課後の時間を計画的に設定し、中学校では、放課後、職員室前の机や少人数教室等を利用した取組を実施する。

### 学力向上支援教員等の授業から学ぶ

- 学力向上支援教員(小学校;国語、算数 中学校;数学)、習熟度別指導推進教員(小学校;算数 中学校;英語)の公開授業に、一人最低1回は参加し、学んだことを各自の実践に生かす。
  - ・公開授業の事後研には、原則参加し、実践の交流を図る。
  - ・学んだことや感想、意見等をアンケートに書き、提出する。
  - ・指導案、指導計画、ワークシート等作成したものは、町の共通ホルダーで共有し、活用出来るようにする。

### 中学校教科部会の充実を行う

- 部会内での授業研究を実施し、授業改善へ向けた取組を推進する。
- 国語、数学部会においては、全国調査B問題について、部会で分析、授業での活用を行い、実践結果を交流する。

### 町標準学力調査を活用する

- 12月末に、小学校4年生~中学校2年生全員を対象に実施する。(小学校は、国語・算数・理科) 中学校は、国語・数学・理科・英語)
- 調査結果をもとに、各学校で1年間の指導の検証を行うとともに、年度末に向けての指導方針を明らかにする。

# 【 日 出 町 】

## 平成28年度 全国学力・学習状況調査結果（児童・生徒質問紙）

### 1 調査結果の概要

#### 児童質問紙

##### 全国平均と比較して特徴的な項目

###### 《学習習慣・授業等に関すること》

- 「学校で、好きな授業がありますか」の問いに、「そう思う」と答えた児童は84.5%で、全国平均より4.6ポイント高い。
- 「授業のはじめに目標が示されていた」と肯定的に答えた児童は89.7%で、全国平均より2.1ポイント高い。また、「ノートに学習の目標とまとめを書いていた」と思う児童は94.5%で、全国平均より6.6p高い。
- 「平日、家で1時間以上勉強する」児童は76.6%で、全国平均より14.3ポイント高い。昨年度より増えている。また、土・日に1時間以上家庭学習に取り組む児童は67.9%で、全国平均よりも10.9ポイント高い。
- 「家で、学校の授業の復習をする」と肯定的に答えた児童は63.1%で、全国平均より7.9ポイント高い。
- 「昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり借りたりするために学校図書館・学校図書室や地域の図書館に週に1～3回以上）行く」児童は、30.7%で、全国平均より14.3ポイント高い。
- 「友だちの前で自分の考えを発表することは得意ですか。」の問いに肯定的に答えた児童は、全国に比較して、5.8ポイント低い。
- 「学級では、学級会などの時間に友達同士で話し合っって学級のきまりなどを決めている」の問いに、「そう思う」と答えた児童は、29.2%で、全国平均より10.4ポイント低い。
- 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思うか」に、そう思うと答えた児童は22.1%で、4.3ポイント低い。
- 「総合的な学習の時間に自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」と肯定的に答えた児童は52.8%で、全国平均より12.6ポイント低い。
- 「国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いているか」に「当てはまる」と答えた児童は25.5%で、全国平均より6.4ポイント低い。

###### 《生活習慣・自尊感情等に関すること》

- 自分にはよいところがあると肯定的に思っている児童は、全国平均より4.8P低い。
- 「普段、テレビやDVD等を2時間以上視聴する」児童は、66%で、全国平均より8.9ポイント高い。また、「普段、テレビゲーム等を2時間以上する」児童は、31%で、全国平均とほとんど変わらない。さらに、「普段、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットを2時間以上する」児童は、14.8%で、全国平均より4.4ポイント高い。

## 全国平均と比較して特徴的な項目

### 《学習習慣・授業等に関すること》

- 「学校で、好きな授業がありますか」の問いに、「そう思う」と答えた生徒は60.1%で、全国平均より5.4ポイント高い。
- 「授業のはじめに目標が示されていた」と肯定的に答えた生徒は95.3%で、全国平均より10.4ポイント高い。また、「ノートに学習の目標とまとめを書いていた」と思う生徒96.4%で、全国平均より19.6ポイント高い。
- 「平日、家で1時間以上勉強する」生徒は85.1%で、全国平均より17.2ポイント高い。また、「土・日に1時間以上家庭学習に取り組む」生徒は93.9%で、全国平均よりも26.1ポイント高い。
- 「家で、学校の宿題をする」と肯定的に答えた生徒は、97.4%で、全国平均より7.3ポイント高い。
- ◇「家で学校の授業の予習をしている」と肯定的に答えた生徒は、22.4%で全国平均より11.8ポイント低い。逆に、予習については、67%が肯定的に答え、全国平均より16ポイント高い。
- 「友だちの前で自分の考えを発表することは得意ですか。」の問いに肯定的に答えた生徒は、39.5%で全国平均に比較して、10.7ポイント低い。
- 「総合的な学習の時間に自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」と肯定的に答えた生徒は39.5%で、全国平均より18.2ポイント低い。

### 《生活習慣・自尊感情等に関すること》

- ◇「普段、テレビやDVD等を2時間以上視聴する」生徒は、46.1%で、全国平均より2.6ポイント低い。また、「普段、テレビゲーム等を2時間以上する」生徒は、28.2%で、全国平均より6.7ポイント低い。しかし、「普段、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットを2時間以上する」生徒は、14.3%で、全国平均より1.8ポイント高い。
- 「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」の問いに肯定的な回答をした生徒は、65.6%で全国平均より9.6ポイント低い。
- 「地域社会などでボランティア活動に参加したことがある」と答えた生徒は、33.3%で全国平均より15.4ポイント低い。
- 自分にはよいところがあると肯定的に思っている生徒は、62.7%で全国平均より6.7ポイント低い。
- 「学校の規則を守っていますか」の問いに、「当てはまる」と答えた生徒は51.4%で全国平均より10.2ポイント低い。また、「友達との約束を守っていますか」の問いに、「当てはまる」と答えた生徒は59.4%で全国平均より9.1ポイント低い。

## 2 日出町の児童・生徒質問紙の調査結果をふまえて

### 《学習習慣・授業等に関すること》

- 「学校で好きな授業がある」と答えた児童生徒の率は全国平均を上回っており、好ましい傾向にある。今後も、生徒指導の3機能を生かしながら、「分かる・できる授業」「楽しい授業」に取り組んでいくことが必要である。
- 1時間完結型授業をめざし、各校で真剣な取組が行われている。児童生徒もそのことを理解し、学習に取り組んでいる。今後も、「新大分スタンダード」に則り、「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」のある授業を目指す。その際、それぞれの意味づけを明確にする取組が今後必要になってくる。
- 家庭での学習時間は、小学生、中学生ともに全国平均を上回っており、好ましい状況にある。特に、中学生は、平日、休日ともに大きく上回っている。宿題についてもきちんとした取組ができており、今後も「今日は、どんな勉強をすればよいか。」児童生徒が分かる手立てを示すことが重要である。また、これまで取り組んでいる家庭学習の習慣化のための「家庭学習のすすめ」の作成・配布を引き続き行うとともに、家庭での協力が得られるよう、学級懇談等で啓発を行うことが重要である。
- 小学生、中学生ともに、みんなの前で発表することを苦手としている。この質問項目は、毎年同じ傾向にあり、本町の課題でもある。「発表ができない原因はどこにあるのか。」「どうすれば発表ができるようになるのか。」を学校全体で考え、その対策を講じていく必要がある。
- 総合的な学習の時間のあり方については、全国平均よりかなり低い割合である。これは、児童生徒に責任があるのではなく、「自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動」を行う授業が行われていないということを意味している。総合的な学習の時間の目標や趣旨を再確認し、授業改善を行う必要がある。

### 《生活習慣・自尊感情等に関すること》

- テレビやゲームに費やす時間は、小学生の方が多く、全国平均と比較しても上回っている。基本的な生活習慣の確立の為にも、改善が必要である。これまでも、「10(11)ー7ー1運動※」「1日にテレビ、ゲーム合わせて2時間以内」の推進を行ってきているが、結果を見ると、まだ十分に定着していない。今後も、PTAと連携した取組(ノースクリーンデー等の家庭でのルールづくり、読書や新聞を読む習慣、「家庭学習の手引き」の充実・活用促進による家庭学習の習慣の確立等)を行っていく必要がある。
- 自己肯定感(自己存在感)を持たせるために、授業や特別活動をはじめとして、学校の教育活動全体の中で、生徒指導の3機能を生かした取組の充実が必要である。
- 中学生の規範意識については、道徳の時間をはじめとして学校の教育活動全体を通じて、豊かな心を育成していくことが重要である。

※午後10時(11時)までに寝て、午前7時までに起き、茶碗一杯(食パン一枚)の朝ご飯を食べようという運動。

# 【 日 出 町 】

## 平成28年度 全国学力・学習状況調査結果（学校質問紙）

### 1 調査結果の概要

#### 小学校：学校質問紙

##### 全国平均と比較して特徴的な項目

- 授業の中で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れ、また、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れる活動は全ての学校が肯定しており、一時間完結型授業が定着している。また、授業で扱うノートに学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書くようにする指導が徹底している。
- 全ての学校で自校の結果を分析し、学校全体で成果や課題を共有するとともに、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用している。また、学校全体の学力傾向や課題について、全教職員の間で共有している。
- 算数においては、少人数指導、補充的な学習の指導、発展的な学習の指導等が積極的に行われている。
- 全ての学校で言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で話し合ったり、検討したりしている。
- 「授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫し、発言や発表ができていない。」また、「学級やグループの話合いなどの活動で、自分の考えをしっかりと伝えることが十分ではない。」と考えている学校が多い。
- 「近隣等の中学校と、教育目標を共有する取組を行っている。」と肯定的に答えた学校は1校のみで、他の4校は否定的な答えであり、県平均・国平均より肯定率がかなり低い。

#### 中学校：学校質問紙

##### 全国平均と比較して特徴的な項目

- 「生徒は熱意をもって勉強している。」「授業中の私語が少なく、落ち着いている。」と考えている。また、学習規律の維持が徹底できている。
- 「授業の中で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れている。」「様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導ができている。」「発言や活動の時間を確保して授業を進めている。」と、全ての学校が考えている。また、授業で扱うノートに学習の目標とまとめを書くようにする指導も徹底している。
- 自校の結果を分析し、学校全体で成果や課題を共有するとともに、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用している。
- 数学の習熟度別学習が行われている。
- 家庭学習の課題を与え、きちんと評価・指導が行われている。その際、家庭学習の与え方について、教職員で共通理解を図っている。
- 「授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫し、発言や発表ができていない。」「学級やグループの話合いなどの活動で、自分の考えをしっかりと伝えることが十分ではない。」と、考えている。
- 近隣等の小学校と、意見を交換し合うなど、教員同士の交流は行われているが、教育目標を共有するまでの取組は行われていない。

## 2 日出町の学校質問紙調査の結果をふまえて

- 中学校においては、生徒は熱意をもって勉強し、授業中も私語が少なく、落ち着いて学習に取り組んでいる。また、学習規律の維持が徹底できている。学力向上のためには、このことが何よりも重要なことであるので、引き続き生徒指導の充実を図っていく。
- 「日出町学力向上推進委員会」を年3回実施し、各校の学力向上に係る取組状況や町全体の抱える課題解決の方策等の協議を行う。その際、「新大分スタンダード」に則った授業のあり方を周知徹底する。
- 小・中学校ともに、「授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫し、発言や発表ができていない。」。また、「学級やグループの話合いなどの活動で、自分の考えをしっかりと伝えることが十分ではない。」という実態が見られるので、言語活動を重視しながら、学び方を育む学習活動の推進に取り組む。
- 「様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をした。」と全ての学校が肯定的に答えているが、現実とは若干異なると思われることもあるので、校内研究や学力向上会議への指導主事の参加を通して、教師一人一人の授業改善や授業力アップを図る。
- 「家庭学習の手引き」の充実・活用促進に引き続き取り組む。
- 習熟度別指導の徹底を図るための指導方法の工夫・改善を図る。